

# 「ソメイヨシノ」の名前

近隣  
散策



写真:上野公園の桜並木

「ソメイヨシノ」は、観賞用として明治時代以降全国に普及し、日本ではサクラの中で最も多く植栽され、最も馴染み深い樹種である。

原産地は、諸説ある中でも、江戸時代末期から明治時代初期にかけて、染井村（現在の東京都豊島区駒込付近）に集落を作っていた造園師や植木職人によって育成、売り出された「吉野桜」とされている。奈良県の桜の名所・吉野山に因んで名付けられた。JR 駒込駅の近くには、発祥の地を伝える記念碑がある。

名前の由来は、東京帝室博物館（現在の東京国立博物館）の藤野<sup>ふじのよりなが</sup>寄命が、「ソメイヨシノ（染井吉野）」と命名し、1900年（明治33年）に「日本園芸会雑誌」において論文「上野公園桜花ノ種類」として発表したことにある。藤野は、上野公園に多く植えられていた「吉野桜」とされる桜を詳しく観察し、吉野山に多いヤマザクラとは花と葉の形態が異なっていることを発見した。また、「吉野桜」のルーツを知り、「染井村」と併せ「ソメイヨシノ」と名付けた。

「ソメイヨシノ」は、見栄えのする大きさに成長するのに5年と成長速度が速く、花が大きいという特徴から花見に適し、花見の名所づくりに重宝されてきた。先の上野公園は、全国でも有数の花見スポットとして知られ、例年見頃には多くの花見客で賑わう。



<参考>

○台東区役所観光課

[https://t-navi.city.taito.lg.jp/course/theme/first\\_place.html](https://t-navi.city.taito.lg.jp/course/theme/first_place.html)

○豊島区の文化・観光・交流都市情報

<https://www.city.toshima.lg.jp/ike-circle/index.html>